

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年6月15日(2006.6.15)

【公表番号】特表2005-524402(P2005-524402A)

【公表日】平成17年8月18日(2005.8.18)

【年通号数】公開・登録公報2005-032

【出願番号】特願2004-501635(P2004-501635)

【国際特許分類】

C 1 2 Q	1/44	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/08	(2006.01)
A 6 1 P	25/14	(2006.01)
A 6 1 P	25/16	(2006.01)
A 6 1 P	25/28	(2006.01)

【F I】

C 1 2 Q	1/44	
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	25/00	1 0 1
A 6 1 P	25/08	
A 6 1 P	25/14	
A 6 1 P	25/16	
A 6 1 P	25/28	

【手続補正書】

【提出日】平成18年4月21日(2006.4.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

化合物がPDE10を選択的に阻害する活性を有するか否かをインピトロで判定する方法であって、

a) 化合物を中等大有棘ニューロン培養物に与え；そして

b) 培養物においてCREBのリン酸化が増大するか否かを測定する

ことを含み、CREBのリン酸化の増大により、工程(a)で与えた化合物がPDE10を選択的に阻害する活性を有すると判定する方法。

【請求項2】

化合物がPDE10を選択的に阻害する活性を有するか否かをインピトロで判定する方法であって、

a) 化合物を中等大有棘ニューロン培養物に与え；そして

b) 培養物において中等大有棘ニューロンが産生するGABAの量が増大するか否かを測定する

ことを含み、中等大有棘ニューロンによるGABA産生の増大により、工程(a)で与えた化合物がPDE10を選択的に阻害する活性を有すると判定する方法。

【請求項3】

強迫性障害、トゥーレット症候群、および他のチック障害から選択される障害を処置す

るための医薬組成物であって、その障害を処置するのに有効な量の選択的PDE10阻害薬を含む医薬組成物。

【請求項4】

神経変性性の障害または症状を処置するための医薬組成物であって、その障害または症状を処置するのに有効な量の選択的PDE10阻害薬を含む医薬組成物。

【請求項5】

神経変性性の障害または症状が、パーキンソン病；ハンチントン病；痴呆、たとえばアルツハイマー病、多発梗塞性痴呆、エイズ関連痴呆、およびフロントテンペラル痴呆；脳外傷関連の神経変性；卒中関連の神経変性、脳梗塞関連の神経変性；低血糖誘発性の神経変性；てんかん性発作関連の神経変性；神経毒中毒関連の神経変性；ならびに多系統萎縮から選択される、請求項4に記載の医薬組成物。

【請求項6】

神経変性性の障害または症状が、中等大有棘ニューロンの神経変性を含む、請求項4に記載の医薬組成物。

【請求項7】

神経変性性の障害または症状が、ハンチントン病である、請求項5に記載の医薬組成物。

【請求項8】

ハンチントン病およびドーパミンアゴニスト療法に関連したジスキネジーから選択される運動障害を処置するための医薬組成物であって、PDE10を阻害するのに有効な量の選択的PDE10阻害薬を含む医薬組成物。

【請求項9】

強迫性障害、トゥーレット症候群、および他のチック障害から選択される障害を処置するための医薬組成物であって、PDE10を阻害するのに有効な量の選択的PDE10阻害薬を含む医薬組成物。